

平成 18 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 澁 谷 工 業 株 式 会 社
代表者名 取締役社長 澁 谷 弘 利
(コード番号6340 東証、名証市場第1部)
問合せ先 常務取締役 吉 道 義 明
(TEL 076 - 262 - 1201)

平成18年 6 月期(中間期)業績予想との差異および(通期)業績予想の修正のお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年8月22日の決算発表時に公表した平成18年6月期中間
(平成17年7月1日～平成17年12月31日)および平成18年6月期(平成17年7月1日～平成18年6月30
日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1．平成18年6月期中間業績予想数値との差異(平成17年7月1日～平成17年12月31日)
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1 7 , 5 0 0	2 5 0	1 2 0
今 回 修 正 予 想 (B)	1 7 , 1 6 5	5 0 4	3
増 減 額 (B - A)	3 3 4	2 5 4	1 2 3
増 減 率 (%)	1 . 9	1 0 1 . 9	—
(ご参考) 前期実績(平成17年6月期中間)	1 6 , 7 1 9	5 2 8	1 8 8

2．平成18年6月期中間連結業績予想数値との差異(平成17年7月1日～平成17年12月31日)
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2 3 , 0 0 0	5 5 0	2 3 0
今 回 修 正 予 想 (B)	2 1 , 4 0 0	7 1 8	1 3 0
増 減 額 (B - A)	1 , 5 9 9	1 6 8	9 9
増 減 率 (%)	7 . 0	3 0 . 6	4 3 . 1
(ご参考) 前期実績(平成17年6月期中間)	1 9 , 2 1 4	8 9 6	2 5 2

3．平成18年6月期通期業績予想数値の修正（平成17年7月1日～平成18年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想（A）	41,000	2,130	1,230
今 回 修 正 予 想（B）	38,000	1,500	570
増 減 額（B - A）	3,000	630	660
増 減 率（％）	7.3	29.6	53.7
（ご参考） 前期実績(平成17年6月期)	37,186	1,727	813

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）21円61銭

4．平成18年6月期連結通期業績予想数値の修正（平成17年7月1日～平成18年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想（A）	50,000	2,700	1,470
今 回 修 正 予 想（B）	48,000	2,030	780
増 減 額（B - A）	2,000	670	690
増 減 率（％）	4.0	24.8	46.9
（ご参考） 前期実績(平成17年6月期)	42,207	2,177	911

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）29円41銭

5．修正の理由

< 中間期 >

単体売上高は、期初予想に比べ1.9%減少しましたが、ほぼ予想通り推移しました。

利益面では、株式運用による有価証券売却益209百万円があったことから、経常利益は504百万円と期初予想に比べ101.9%と大幅に増加しました。一方、中間純利益は、相互持合株式の売却益82百万円や子会社に対する債務保証損失引当金戻入85百万円など特別利益が169百万円あったものの、過年度役員退職引当金繰入274百万円など特別損失が395百万円生じ、加えて繰延税金資産の回収可能性をより厳密に検討した結果、法人税等調整額が146百万円負担となり、中間純損失3百万円の計上を余儀なくされました。

連結売上高は、メカトロシステム事業の大型環境設備プラントの売上が下期となり、その結果21,400百万円と、期初予想に比べ7.0%減少しました。

利益面では、株式運用による有価証券売却益227百万円があったものの、子会社の収益力の向上が計画を下回り、経常利益は718百万円と期初予想に比べ30.6%増加と単体と比べ低い伸びにとどまりました。一方、中間純利益は、特別利益が86百万円あったものの、過年度役員退職引当金繰入278百万円など特別損失が342百万円生じ、また法人税等調整額が146百万円負担となり、中間純利益は130百万円と期初予想に比べ43.1%減少となりました。

<通 期>

単体の売上高は、メカトロシステム事業が堅調に推移する予定ですが、主力のパッケージプラント事業では、客先業界全般に販売単価の下落圧力とコストアップ要因が重なり、設備投資の見直しから投資時期の先送りと、加えてマンションの耐震強度偽装事件の余波から、一部のユーザーで新工場の建設計画が遅れ気味に推移し、期内に見込んでいた案件が来期以降となるなど、売上高の予想は38,000百万円と期初予想に比べ7.3%の減少を見込んでおります。

一方利益面では、一層のコスト破壊に努めるものの、売上高減少に伴う固定費負担が高まることから、経常利益1,500百万円、当期純利益570百万円と期初予想に比べ、それぞれ29.6%、53.7%の大幅減少を見込んでおります。

連結の業績につきましては、売上高および利益面とも単体の業績と同じ理由によるものであります。

以 上